



2011年12月21日

季節性インフルエンザワクチン ASP7374 の第 I/II 相臨床試験において 免疫原性及び良好な忍容性が確認されました

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：畑中 好彦）と株式会社 UMN ファーマ（本社：秋田市、社長：金指 秀一）は、両社が共同で開発を進めている季節性インフルエンザ HA ワクチン ASP7374（旧開発コード：UMN-0502）の第 I/II 相臨床試験において、免疫原性と良好な忍容性が確認されましたのでお知らせします。

この臨床試験では、健康成人被験者 165 名を対象に ASP7374 の皮下接種 2 用量及び筋肉内接種 1 用量での免疫原性及び安全性を比較検討し、ASP7374 の臨床推奨用量を検討することを主な目的としていました。9 月 15 日付プレスリリースにてお知らせしました通り、被験者全例への治験薬接種が完了し、データの集計作業を行なっていました。

今回、ASP7374 の免疫原性が確認されるとともに、重篤な有害事象も認められず、良好な忍容性が確認されました。

ASP7374 は、3 種類の抗原からなる季節性組換えインフルエンザ HA ワクチンで、バイオ医薬品の次世代製造プラットフォームである BEVS (Baculovirus Expression Vector System) を用いた細胞培養法で製造されています。米国では、Protein Sciences Corporation が本ワクチンの臨床試験をすべて終了し、現在、米国食品医薬品局 (FDA) が承認審査を行っています。

お問い合わせ先
アステラス製薬株式会社 広報部 TEL:03-3244-3201 FAX:03-5201-7473
株式会社 UMN ファーマ 取締役経営企画部長 手嶋 剛 TEL:045-624-8341 E-mail: press@umnpharma.com